



4.1

2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。

4.3

2030年までに、全ての人々が男女の区別なく、手の届く質の高い技術教育・職業教育及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。

■在学生メンバー

十川 望

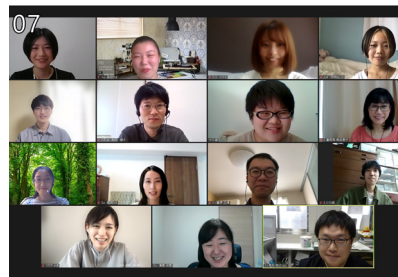
■教員

濱島 淑恵
尾形 祐己

医療保健学部
口腔保健学科

ヤングケアラー（家族の介護を担う子どもや若者） のワンストップ支援を目指して

私は、本学の濱島教授が立ち上げたヤングケアラーがつながるための集いの場「ふうせんの会」に学生メンバーとして参加しています。ヤングケアラーは、様々な理由で家事、きょうだいの世話、家族の介護、感情的サポート、通訳等をしている（していた）子ども、若者たちのことをいいます。濱島教授が実施した調査では、高校生の20人に1人がヤングケアラーだと分かりました。ひとり親世帯、経済的困難などの環境にヤングケアラーは多くみられるといわれており、「背景には社会の構造的な問題がある」と濱島教授は指摘します。ヤングケアラーは児童虐待、不登校、非行などと異なり、児童福祉の問題として顕在化されず、支援がなかなか届かないことに課題があります。集いに参加するヤングケアラーが、今何に困っているのか、苦しんでいるのか、つらかった経験、社会に訴えたいことなど、医療・福祉を学ぶ学生として、当事者の声をしっかり受け止め、一人でも多くの人に知ってもらうことが支援につながると考えています。



コロナ禍でも、
集いはオンラインで
開催を継続しています。

message

SDGsの目標のうち、「1 貧困をなくそう」や「3 すべての人に健康と福祉を」「4 質の高い教育をみんなに」は、特にヤングケアラーの支援活動と密接に関係しています。貧困や飢餓は、開発途上国に対する支援と考えられがちですが、日本の子どもの6人から7人に1人が貧困だと言われています。私たちの活動を通して、決して遠い世界の話ではないんだと知ってもらえたらと思います。